

1 単元名・教材名 「おおきなかぶげきじょう」をひらこう 「おおきな かぶ」

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 児童の実態

(略)

(2) 本単元の意図

本単元は、学習指導要領〈知識及び技能〉の(1)「ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること」と、〈思考力、判断力、表現力等〉の「C 読むこと」(1)「イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること」を受けて設定している。

身に付けさせる資質・能力

- ・ 繰り返しやリズムに気を付けながら、声に出して読む力
- ・ 劇遊びを通して、登場人物の行動や言葉のやり取りを想像する力

指導にあたっては、三つの段階で指導を展開していく。

第1次では、学習の見通しをもたせる。まず、「おおきなかぶ」という題名から「かぶ」について知っていること（色、大きさ等）を発表させ、「おおきなかぶ」のイメージを話し合う。どれくらいの高さなのかを想像させ、自由に発表させることで、お話への興味・関心を高める。そして、教師の範読を聞き、お話の大体の内容をつかみ、登場人物と増えていく順番をクラス全体で確認する。

『「おおきなかぶげきじょう」をひらこう』という学習のゴールを設定し、「劇遊びをする」という学習の見通しをもたせ、一人ではなく友達と声に出して読むことへの意欲と学習への期待を膨らませたい。

第2次では、挿絵や教材文を手がかりに想像を広げる。1の場面では、おじいさんの様子から日本とロシアの違いに気付かせたり、おじいさんの台詞からおじいさんの願い等を考え、想像させたりする。2の場面からは、どんどん登場人物が増えていき、なかなかかぶが抜けない様子が続く。変化のある繰り返しを声に出して楽しく読ませることで、繰り返しの面白さに気付かせたい。また、9の場面でやっとかぶがぬける様子から、「小さなねずみの力も合わせて、みんなの力で大きなかぶが抜ける」という本教材の主題についても感じ取ら

せたい。そして、つなぎ言葉に気を付けながら、「声の大きさ」「せりふの速さ」「間合い」「動作」などの読む工夫を進んで取り入れながら劇遊びができるように、声に出して読む活動や動作化する活動を多く取り入れる。

第3次では、「おおきなかぶげきじょう」を開く。グループごとに、登場人物の様子を想像し、台詞や動作を考えながら劇の練習をする。発表会では、それぞれのグループの良いところを発表し合うことで、今後の学習への自信につなげていきたい。

毎時間、学習の終末に「まとめ」と「振り返り」の活動を設定する。「まとめ」では、本時の「めあて」に沿った振り返りを行う。振り返りでは、「新しく分かったこと」「気付いたこと」「疑問に思ったこと」等、今日の学習を通して感じたことを発表し合う。

このように、友達との交流を通して、協働的な学びを積み上げ、粘り強く学習に取り組む態度を育てることが、主体的・対話的で深い学びにつながっていくものとする。

3 研究主題との関わり

研究主題『確かな学力と豊かな心を育てる国語教室』

～生きて働く力を育てる指導法の工夫～

本研究で目指す「確かな学力と豊かな心が育っている児童」とは、「生きて働く力を身に付けている子」である。「生きて働く力」とは、「学習の基本となる確かな国語力を身に付け（語彙力）、自分の思いや考えを、伝え合いや学び合いを通して広げ深める力（表現力）」と考える。そのためには、児童の実態を正しく把握し、年間を通して確実に指導事項が身に付くように、単元を通して付けたい資質・能力を見極め、言語活動を通して指導していく。

そこで、本単元では、次のような手だてを考えた。

仮説①

基礎的・基本的な知識・技能とその単元を通して付けたい資質・能力を明確にする。その力を付けるための言語活動を設定し、主体的に文章を読み、学ぶ楽しさを味わうことにより、確かな学力と豊かな心が育つであろう。

〈 手だて 〉 ○学習のゴールに向けて、主体的に学ぶための挿絵の活用

繰り返しやリズムに気を付けながら声に出して読む力や、登場人物の行動や言葉のやり取りを想像する力を身に付けさせるために、学習のゴールを『「おおきなかぶげきじょう」をひらこう』と設定する。主体的に学ぶための手立ての一つとして動作化や劇遊びを取り入れる。挿絵を活用し、登場人物を確認させたり、話の順に並べ替えさせたりしながら、挿絵から想像したことを交流させ、音読に生かすようにさせたい。「おじいさんがかぶの種を植えてから大きなかぶになるまでの間」、「かぶを抜くまでに仲間を呼んでくるまでの間」、「おおきなかぶが抜けたあと」など、そして、挿絵がなく教材文に書かれていないことについても、想像を働かせ、登場人物の行動や台詞を考えさせる。「自分もやってみたい」という気持ちを喚起させ、劇遊びにつなげていく。このような活動をとおり、主体的に学び、学ぶ楽しさを味わうことにより、語彙力や表現力が育つであろうと考える。

仮説②

相手意識・目的意識をもった学習活動を工夫する。協働的に学び合う場を設定し、互いの思いや考えをいきいきと伝え合い、考えを広げ深めることにより、確かな学力と豊かな心が育つであろう。

〈手だて〉 ○友達と考えを伝え合い、見方・考え方を広げるための動作化

本教材の特徴の一つに、「繰り返しと変化のおもしろさ」がある。かぶを抜くために、「うんとこしょ、どっこいしょ。」と声を合わせ、登場人物が増えていく。かぶを引っ張る人数が増えることで、引っ張られているかぶのイメージもその大きさを増していく。しかも登場人物が大きなものから小さなものへとになっていき、「小さなねずみの力があってこそ、大きなかぶが抜ける」という話の展開になっている。「小さくても大事な存在」、「一人一人を大切にしてみんなで協力する」という本教材の主題に迫る手だてとし、引っ張っている人の力を図に表すという活動を行う。クラスのみんなで考えることで、協働的に学び合う場を設定する。みんなの力がどんどん大きくなっていることにも気付かせることで、音読をするときの声の大きさにもつなげられるようにする。また、「うんとこしょ、どっこいしょ。」の動作化を見合い、気付いたことやよかったことを発表し合うことで、劇に生かせるようにする。このような活動を通して、考えを広げ深めることにより、語彙力や表現力が育つであろうと考える。

4 単元の目標

- (1) 語のまとまりや言語の響きなどに気を付けて音読することができる。 〈知識及び技能〉(1)ク
- (2) 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)イ
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合うとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

5 本単元で取り上げる言語活動

- ・物語を楽しんで音読したり、劇遊びをしたりする。 (関連：C 読むこと 言語活動例イ)

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 ((1)ク)	①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている (C(1)イ)	①進んで、登場人物の行動や台詞を考え、今までの学習を生かして、動作化しながら表現しようとしている。

7 単元の指導と評価の計画 (全7時間)

次	時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	1	○かぶについてのイメージを話し合い、発表する。 ○教師の範読を聞き、話の大体をつかむ。 ○感想を発表する。 ○教師と一緒に音読する。 ○「どこ」「だれ」を確かめる。 ○学習の見通しをもつ。 ・全体交流	○内容の大体を捉えること ○挿絵の活用 ○場所・登場人物	○題名からイメージを広げ、どんなお話か想像したり、場所や登場人物を確認したりして、十分に関心・意欲を高め、学習への期待をもたせる。

2	2	<ul style="list-style-type: none"> ○全文音読 ○種をまいたおじいさんの願いを想像する。 ○「あまい あまい、おおきな おおきなかぶ」の様子を想像する。 ・全体交流 	<ul style="list-style-type: none"> ○おじいさんの服装・住まい等から、日本との違いを捉えること ○おじいさんの言動からの想像 ○かぶへのイメージ 	<ul style="list-style-type: none"> ○挿絵を活用し、おじいさんの様子を想像させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【思考・判断・表現①】 <u>発表</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵や教材文から内容の大体を捉え、おじいさんの願いを想像しているか確認する。 </div>
	3 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○かぶを引っ張っている人のようすを想像する。 ○「けれども」「それでも」「とうとう」などのつなぎ言葉に気を付けて音読する。 ○「うんとこしょ、どっこいしょ」の読み方を、動作化しながら考える。 ・全体交流 	<ul style="list-style-type: none"> ○内容の大体を捉えること ○つなぎ言葉とそれに続く文 ○「うんとこしょ、どっこいしょ。」の読み方、動き方 	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなで力を合わせたことでかぶがぬけたことや、音読や動作化を通して、教材文のおもしろさに気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【思考・判断・表現①】 <u>音読、行動観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うんとこしょ、どっこいしょ。」の声と動きに合わせて、一緒に声を出して読んでいるか確認する。 </div>
3	4 5	<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物の様子を想像し、台詞を考えたり、動作を考えたりして、劇の練習をする。 ○練習を見合い、良いところを伝え合う。 ・グループ交流 	<ul style="list-style-type: none"> ○劇の練習の進め方 ○相互評価の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループで協力して劇の練習を進めさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【思考・判断・表現①】 <u>劇の練習の様子</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割ごとに動きやせりふをつけたして、劇の練習をしているか確認する。 </div>
	6	<ul style="list-style-type: none"> ○劇の発表をする。 ○感想を発表する。 ○学習を振り返る。 ・グループ交流 ・全体交流 	<ul style="list-style-type: none"> ○劇の発表 ○相互評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○劇の発表を見合い、良いところを認め合う機会を作る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【知識・技能①】 <u>劇の発表の観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・つなぎ言葉に気を付けて音読しているか確認する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 <u>劇の発表の観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を生かし、グループで協力して劇の発表をしているか確認する。 </div>

8 本時の展開 (3 / 6 時間)

(1) 目標

場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉C (1) イ

(2) 評価規準

場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。

【思考・判断・表現】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導の留意点 (○) 校内研修との関わり (★) 評価	時間
1 既習の言葉を読む。	○長音・拗音・促音・撥音のある言葉	○はっきり声を出し、正しく読ませる。	2
2 前時の学習を想起する。		○掲示物を活用して、おじいさんの願いや題名から分かるかぶの様子を想起させる。	3
3 本時のめあてを確認する。			2
かぶがぬけるようすをそうぞうしよう。			
4 かぶを引っ張っている人のようすを想像する。	○一斉音読 ○内容の大体を捉えること ○つなぎ言葉とそれに続く文	○登場人物の出てくる順番を確認する。 ○「けれども」「それでも」「とうとう」などのつなぎ言葉に気を付けて音読する。 ○ねずみが引っ張ったことでかぶがぬけたので、ねずみが一番力持ちなのか、児童に考えさせる。 ○それぞれがどのくらいの力でかぶを引っ張っているのか、図に表して考えることで、「小さくても大事な存在」、「一人一人を大切にしてみんなで協力する」ことに気付かる。 ★クラスのみんなで話し合い考えを深めさせる。	13
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちがう。 →他にも引っ張っている人がいる。 →おじいさんとおばあさんは体が大きいから力持ち。 →ねずみは小さいから一番力が弱い。 →みんなの力でかぶをぬいた。 </div>			
5 「うんとこしょ、どっこいしょ」の読み方を、動作化しながら考える。	○「うんとこしょ、どっこいしょ。」の読み方、動き方 ○一斉音読	○声の大きさ、引っ張る強さの違いに気付かせる。 ○声の大きさ、引っ張る強さの違いに気を付けながら読むように助言する。 ★「うんとこしょ、どっこいしょ。」を動作化させる。 ★繰り返しを楽しみなから音読させる。	15

<p>6 本時の学習のまとめ をする。</p>	<p>○活動内容の整理</p>	<p>〈評価場面〉 【思・判・表①】 〈評価方法〉 行動、観察 ・かぶがぬけるようすを想像して、「うんとこしょ、どっこいしょ。」と音読している児童をB評価とする。 〈「努力を要する状況(C)」への手だて〉 ・「うんとこしょ、どっこいしょ。」は何をしているときのかけ声が気付かせる。 ・かぶを抜く時の言葉を声を合わせて言うように助言する。 ・登場人物が増えるにつれての読み方を考えさせ、声に出させる。</p>	<p>5</p>
<p>7 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○本時の振り返り</p>	<p>○学習したことから、感想や次時につなげたことを発表させる。</p>	<p>5</p>

みんなで「うんとこしょ、どっこいしょ。」とちからをあわせたから、かぶがぬけた。

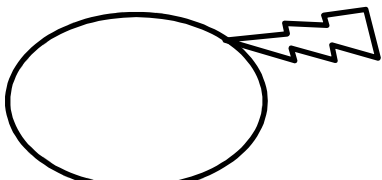
〈期待される児童の振り返り〉
 ・かぶがぬけるようすをそうぞうすることができました。
 ・みんなでこえをあわせて「うんとこしょ、どっこいしょ。」といったのがたのしかったです。
 ・はやく「おおきなかぶげきじょう」をやりたいです。
 ・みんなのちからでかぶがぬけたことがわかりました。

9 板書計画

みんな「うんとこしょ、どっこいしょ。」とちからをあわせたから、かぶがぬけた。

うんとこしょ、どっこいしょ

ぬけました



かぶがぬけるようすを
そうぞうしよう。

6がつ20か(か)
おおきなかぶ

おじいさん	けれども	ひっぱって	よんできて
おばあさん	それでも	ひっぱって	よんできて
まご	やっぱり	ひっぱって	よんできて
いぬ	まだまだ	ひっぱって	よんできて
ねこ	なかなか	ひっぱって	よんできて
ねずみ	とうとう	ひっぱって	よんできて